



「へのへのもへじ」はだれが考えたの

考えたのは平安時代だが、だれが作ったかはわからない

「へのへのもへじ」のような絵を「文字絵」といいます。西日本では「へのへのもへのじ」といわれましたが、東日本では、「へのへのもへじ」といいました。これらの文字絵は、約1000年前の平安時代から書かれているようで、古くから、いい伝えられてきたものです。しかし、だれが、いつごろ考え出したかはわかりません。

ことばで唱えながら書いていく文字絵も

へのへのもへじとよく似たものに、ことばを唱えながら文字絵にする遊びがあります。たとえば「ミミズが三匹はってきて、朝飯夕飯晩の飯、雨がざあざあ降ってきて、あられがぼつぼつ降ってきて、あっというまにタコ入道」ということばで、タコ入道の絵になります。また「まるかいてちょん、まるかいてちょん、ちょんちょん、ちょんちょん、まるちょんちょん、まるまる、ちょんちょん、ぶうぶうぶう」で、ブタの絵になります。

(監修・保岡 孝之)

